

ふれあい通信

ああコロナよ、コロナ…



大谷 ツネ子 ●東京支部
(旧姓：宗像) ●浮金出身

先日、友人からの旅の誘いに二つ返事でOKをし、旅先でのあれやこれを想いつつ、ニヤニヤ、ウキウキしていたら、なんと目的地の知事が「東京か

らは来てくれるな！東京には行かないで！」との会見。ふむふむ、さもありなん！

すでにどこへ出ても立派？な高齢者…を十分に自認・自覚をしているつもりでいたはずの身に「東京」「高齢」の圧力がどっしりとくる。

どこもかしこも「密」なのは分かっている。終わりの見えない路頭に立たされた気分で「コロナ」にまつわるもろもろを恨めしく感じつつも、せめてわが身が「うつす」側にならないようにと自重の日々である。

そんな折、小野町から届いた懐かしい味に触れ、故郷の風の心地よさ、水のおいしさ、多くの笑顔の温かさなど浮かびくる感傷は今年ならではのもののなか…

忘年会・新年会・同級会と、会という会は次々と中止を余儀なくされ、電話などでの会話も「コロナは大丈夫？」と確認から始まる状況。

新春を迎え、卒業式などの多くの年中行事を控える今、せめてクラスターが起こらないようにと願うばかりである。

地域包括支援センターからのお知らせ

～いつもまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために～

第1回小野町介護支援推進会議が昨年12月18日、多目的研修集会施設で開かれました。

この会議は町内高齢者に関わる介護支援専門員および介護サービス事業所の連携を図り、ケアマネジメント体制および高齢者地域ネットワークを強化する目的で年に数回行っており、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策の徹底を行い実施しました。

講師である公立小野町地方総合病院の佐藤浩二患者サポート室相談員、石原文香外来師長から「地域ケア病床について」をテーマに、急性期の治療を終えた患者さんが、安心して在宅療養を受けられるまでの間に必要な医療支援を受けることができる病床などについて解りやすく説明がありました。

日常業務で高齢者支援を行っている参加者は、利



介護支援推進会議の様子

用者や家族が安心して必要な介護や医療を受け在宅での生活を維持できるか考慮しながら熱心に聞いている様子が見受けられました。

☎小野町地域包括支援センター ☎72-2128